

令和4年度 富山市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する報告

令和5年5月

富山市（富山県）

○計画期間:令和4年4月～令和9年3月(5年0月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和4年度終了時点(令和5年3月31日時点)の中心市街地の概況

富山市中心市街地活性化基本計画では、目指す中心市街地の都市像を「魅力的な都市空間を舞台に、未来を担う人材が生まれ、笑顔あふれる活力あるまち」と設定している。

その都市像の実現を目指して、「公共交通・都市空間」、「商業・賑わい」、「暮らし」の観点に基づき、「公共交通ネットワークの活用と良質な都市空間の形成による回遊性の高い中心市街地の形成」、「まちなかの既存ストックを活用した創業・起業・チャレンジが生まれる中心市街地の形成」、「すべての世代がそれぞれのライフステージに応じて、幸せに暮らせる中心市街地の形成」の3つの方針のもと、それぞれに目標を定め、各種事業に取り組んでいる。

「公共交通・都市空間」の観点では、令和2年3月に富山駅路面電車南北接続事業が完成したことにより、富山駅で南北に分断されていた路面電車が接続し、乗り換えをすることなく市街地南北の移動が可能になったことや、富山駅北地区におけるブルバール等再整備事業によりイベント広場の一部エリアが共用開始するなど魅力的な都市空間が創出された。

「商業・賑わい」の観点では、令和4年3月に富山駅前に商業施設「MAROOT」が開業したことや中心商業地区と富山駅北地区でそれぞれトランジットモールとブルバール社会実験のイベントが同時開催されるなど中心市街地の賑わいを創出した。

「暮らし」の観点では、平成19年度から中心市街地の居住人口の社会増加が続いている。生活利便施設や交通網の整備などにより質の高い居住環境が整ってきていることやまちなか居住推進事業による支援などによりまちなかの居住ニーズが高まり、今後も再開発事業や民間資本による分譲マンションの建設が続くなど好循環が生まれている。

令和4年度は、感染力が大きい新種のウイルスの蔓延により、新型コロナウイルス新規感染者数が過去最高を更新するなど感染拡大が収束せず、引き続き外出を控えていた方が多かったこともあり、目標指標のうち、「市内電車一日平均乗車人数」及び「中心市街地の健康な高齢者の割合」は令和元年度の基準値を下回った。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度6月末日)

| (中心市街地 区域) | 令和3年度 (計画前年度) | 令和4年度 (1年目) | 令和5年度 (2年目) | 令和6年度 (3年目) | 令和7年度 (4年目) | 令和8年度 (5年目) |
|---------------|------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 人口 | 21,711 | 21,641 | | | | |
| 人口増減数 | ▲175 | ▲70 | | | | |
| 自然増減数 | ▲235 | ▲194 | | | | |
| 社会増減数 | 60 | 124 | | | | |
| 転入者数 | 1,272 | 1,427 | | | | |

(2) 地価

(単位：円/㎡)

| | 令和3年度 (計画前年度) | 令和4年度 (1年目) | 令和5年度 (2年目) | 令和6年度 (3年目) | 令和7年度 (4年目) | 令和8年度 (最終年度) |
|-------------|------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|-----------------|
| 中心市街地 平均 | 161,938 | 162,133 | | | | |

2. 令和4年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

富山市では、中心市街地の都市像を「魅力的な都市空間を舞台に、未来を担う人材が生まれ、笑顔あふれる活力あるまち」と設定し、その実現のため「公共交通・都市空間」「商業・賑わい」「暮らし」の3つの観点により計画に位置付けた各種事業を推進され、中心市街地の活性化を図られている。

計画の初年度となる令和4年度の4つの目標指標のうち、「中心商業地区及び富山駅周辺地区の歩行者通行量(日曜日)」及び「中心市街地の居住人口の社会増」の2つの目標指標は目標値を上回っていたが、未だ新型コロナウイルス感染症の影響もあり、「市内電車一日平均乗車人数」及び「中心市街地の健康な高齢者の割合」の2つの目標指標は目標値を下回る結果となった。

しかしながら、新型コロナウイルスのマスク着用について緩和されたことや感染症法上の位置づけの見直しなど外出機運が高まることも想定されるため、これら2つの目標指標も回復へ向かうことが期待できる。

特に、「中心商業地区及び富山駅周辺地区の歩行者通行量(日曜日)」及び「中心市街地の居住人口の社会増」については、目標値を上回る数値となっており、富山市新規出店サポート事業やまちなか居住推進事業など、計画に位置付けた事業を着実に実施してきた効果が現れているものと考えられる。

当協議会としては、第3期計画から続くこれまでの流れを止めることなく、計画に位置づけられた各種事業を官民が連携して着実に実施していくことが重要であると考えており、目標指標の達成状況を注視しながら助言や提案等を行うなど、計画に掲げられた目標を達成できるよう中心市街地の更なる活性化に向けて共に取り組んでいきたい。

また、「魅力的な都市空間を舞台に、未来を担う人材が生まれ、笑顔あふれる活力あるまち」の実現に向けて基本計画を推進し、中心市街地だけにとどまらず、市全体が活性化することを期待する。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

| 目標 | 目標指標 | 基準値 | 目標値 | 最新値 | 基準値からの改善状況 | 前回の見通し | 今回の見通し |
|----------------------------|--|--|--|------------------------------------|------------|--------|--------|
| ① 来街者が回遊する魅力的な都市空間の創出 | ①市内電車一日平均乗車人数 | 20,429 人/日 (R元) | 21,500 人/日 (R8) | 19,298 人/日 | C | - | ① |
| ② 商業・賑わいの再生による活力ある歩きたくなるまち | ②中心商業地区及び富山駅周辺地区の歩行者通行量(日曜日) | 51,577 人 (R元) | 53,000 人 (R8) | 64,567 人 | A | - | ① |
| ③ 多世代が集い、良質な暮らしを享受できるまち | ③-1 中心市街地の居住人口の社会増 | 1,582 人 (113 人増/年) (H17~R元) | 565 人 (113 人増/年) (R3~R8) | 124 人増 | A | - | ① |
| | ③-2 中心市街地の健康な高齢者の割合 【前期高齢者:65~74歳】 【後期高齢者:75歳以上】 (65歳以上の高齢者で、介護保険の要支援・要介護認定を受けていない人の割合) | 前期高齢者: 95.9% 後期高齢者: 63.7% (R元) | 前期高齢者: 96.3%以上 後期高齢者: 63.7%以上 (R8) | 前期高齢者: 95.5% 後期高齢者: 62.7% | C | - | ① |

<基準値からの改善状況>

A: 目標達成、B: 基準値より改善、C: 基準値に及ばない

<目標達成に関する見通しの分類>

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ1、2とする。

2. 目標達成見通しの理由

令和4年度の市内電車一日平均乗車人数は19,298人/日となり、基準年度である令和元年度の20,429人/日を1,131人/日(約5.5%)下回っており、目標値の21,500人/日に達していない状況である。

これは、感染力が大きい新種のウイルスの蔓延により新型コロナウイルス新規感染者数が過去最高を更新するなど令和4年度においても感染拡大が収束せず、引き続き外出を控えていた方が多かったことや、インバウンドを含めた観光客が少なかったことが要因と考えられる。

今後については、富山駅北側のブルーパールの再整備によるイベント空間の共用開始や多目的な用途での活用が期待されるオーバード・ホール/中ホールの開館などに伴い、市民の中心市街地への外出機会の増加が期待される。また、新型コロナウイルス感染予防のマスク着用が緩和されたことなどから、市民の外出機運が高まることに加え、観光客等の来街者の増加も期待され、徐々に市内電車の利用者数は回復するものと見込んでいる。

令和4年度の「中心商業地区及び富山駅周辺地区の歩行者通行量」は、64,567人となり、基準年度である令和元年度と比べると12,990人(約25.2%)増加している。

特に富山駅周辺地区の歩行者通行量が上昇しているが、これは、令和4年3月に商業施設である「MAROOT」が開業したことが大きな要因であると考えられる。しかし、中心商業地区では、歩行者通行量が減少しており、これは、新型コロナウイルス感染拡大前と比べ、イベント開催数が回復していないことが要因であると考えられる。

今後については、新型コロナウイルス感染予防のマスク着用が緩和されていることなどにより市民の外出機会やイベントの開催が増加し、中心商業地区の歩行者通行量が回復するものと考えられる。

「中心市街地の居住人口の社会増」は、令和3年度から令和4年度にかけて124人の社会増加となっており、基準値や目標値である113人増/年を上回っている。

これは、「まちなか居住推進事業」により、まちなかにおける住宅の取得や家賃の助成などに対する支援の効果が現れたものと考えられる。

また、中心市街地における居住人口の社会増加が継続している理由としては、市内電車環状線や循環型コミュニティバス「まいどはやバス」、自転車市民共同利用システムなどによるまちなかにおける交通利便性の向上や、新鮮な地場産品を取り扱う「地場もん屋」をはじめとした生活利便施設の立地など、質の高い居住環境が整ってきたことでまちなかでの居住ニーズが高まっていることも要因と考えられる。

今後も、再開発事業等による分譲マンションの建設が予定されており、まちなかでの居住ニーズが更に高まると考えられることから、中心市街地における居住人口の社会増加が継続するものと見込んでいる。

令和4年度における「中心市街地の健康な高齢者の割合」は、前期高齢者においては95.5%と、基準年度である令和元年度の基準値と比べ0.4ポイント、目標値と比べ0.8ポイントそれぞれ下回っている。

また、後期高齢者においては62.7%と、基準年度である令和元年度の値及び目標値と比べ1.0ポイント下回っている。

これは、新型コロナウイルス新規感染者が過去最大を更新するなど、高齢者の外出機会が少なくなったことが要因と考えられる。

今後、新型コロナウイルス感染予防のマスク着用が緩和されたことなどにより高齢者の外出機運の高まりが期待されるとともに、角川介護予防センターの介護予防プログラムの提供やまちなか総合ケアセンターにおける在宅医療の推進をはじめとした支援を実施するほか、シニアライフ講座運営事業、歩くライフスタイル推進事業、おでかけ定期券事業など高齢者の外出機会の増加につながる事業を実施することで、中心市街地の健康な高齢者の割合が増え、目標を達成可能と見込んでいる。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップは実施していない。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「市内電車一日平均乗車人数」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 79～P. 85 参照

●調査結果と分析



| 年 | (単位) |
|----|----------------------|
| R元 | 20,429 人/日 (基準年値) |
| R4 | 19,298 人/日 |
| R5 | |
| R6 | |
| R7 | |
| R8 | 21,500 人/日 (目標値) |

※調査方法：実測値による平均人数

※調査月：通年

※調査主体：(R元年度まで) 富山地方鉄道株式会社及び富山ライトレール株式会社
(R2年度以降) 富山地方鉄道株式会社

※調査対象：市内電車

〈分析内容〉

令和4年度の市内電車一日平均乗車人数は19,298人/日となり、基準年度である令和元年度の20,429人/日を1,131人/日(約5.5%)下回っている。これは、新型コロナウイルス新規感染者が過去最大となるなど、市民の外出機会が減ったことや、インバウンドも含めた観光客が少なかったことが要因と考えられる。

しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けた令和2年度や令和3年度と比較すると回復基調にある。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. グールパール等再整備事業(富山市)

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 令和元年度～令和7年度【実施中】 |
| 事業概要 | 路面電車の南北接続を契機として、富山駅北の賑わいを創出するためパール等の再整備やイベント等の社会実験を実施する事業である。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(富山市中心市街地地区(第4期))) (国土交通省)(令和4年度～令和7年度) |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 【事業目標値】170人/日 増 調査地点である「オーバード・ホール前」の歩行者通行量の最新値(令和4年度)は平日605人/日、休日2,442人/日であり、基準年度である令和元年度の実績と比べ平日5,219人/日、休日 |

| | |
|-----------|--|
| | <p>298人/日減少した。よって、市内電車の利用者は367人/日減少していると思込まれる。</p> <p>これは、新型コロナウイルスの新規感染者数が過去最高を更新するなど外出を控えていた方が多かったことに加え、令和4年9月まで当該調査地点付近において再整備工事を行っていたこともあり、歩行者通行量が減少したものと思われる。</p> |
| 事業の今後について | <p>令和3年9月に工事着工、令和4年9月にブルーバールの一部のエリアについて再整備が完了し、社会実験も3件行った。引き続き、残りのエリアの再整備を進め、イベント等の社会実験にも取り組むことにより、事業完了後には、市内電車一日平均乗車人数が170人/日増加すると見込まれる。</p> |

②. 中規模ホール整備官民連携事業（富山市）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 平成29年度～【実施中】 |
| 事業概要 | PFI手法を用いて、富山市芸術文化ホール（オーバード・ホール）北側に中規模ホールを整備し、維持管理を行う事業である。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | <p>【事業目標値】15人/日 増</p> <p>【最新値】—</p> <p>令和5年7月1日開業予定である。</p> |
| 事業の今後について | <p>令和3年6月に工事着工、開館は令和5年7月1日を予定している。開館後はホールの来館者が増加することにより、まちなかへの来街者が増え、事業目標値の達成も可能と考えられる。</p> |

③. 交通空間賑わい実証事業（富山市/大手モール周辺賑わい創出実行委員会）

| | |
|-----------------|--|
| 事業実施期間 | 平成28年度～令和8年度【実施中】 |
| 事業概要 | 富山城址公園が隣接し、沿道にコンベンション施設や複合型商業施設等が並び、路面電車が走行する大手モールをイベントに合わせてトランジットモール化する事業。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和4年度～令和8年度） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | <p>【事業目標値】22人/日 増</p> <p>調査地点である「市民プラザ前」の歩行者通行量の最新値（令和4年度）は平日1,724人/日、休日2,311人/日と基準年度である令和元年度と比べ平日119人/日、休日330人/日減少した。よって、歩行者通行量は185人/日減少し、市内電車の利用者は19人/日減少していると思込まれる。</p> <p>交通空間賑わい実証事業のイベントにおいて、歩行者通行量が通常時の4倍以上になるなど大手モール周辺の賑わいが図られている。</p> |

| | |
|-----------|--|
| | るが、新型コロナウイルスの影響もあり、外出機会が減ったことや感染拡大前と比べ中心商業地区においてイベントの開催数が回復していないこともあり、事業目標値を満たせなかったと考えられる。 |
| 事業の今後について | 引き続き、事業を継続し、大手モール周辺の賑わい及び集客の創出が図られることで、市内電車を利用した来街者も増え、事業目標値の達成も可能と考えられる。 |

④. 富山市新規出店サポート事業（富山市）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 平成21年度～令和8年度【実施中】 |
| 事業概要 | 中心商店街等の空き店舗への出店者に対し、店舗改装費や賃借料等を支援し、市民、来街者のニーズが高く、商店街に不足している業種の出店を促進する事業である。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和4年度～令和8年度） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 【事業目標値】41人/日 増 令和4年度は5件の新規出店に対して支援したことにより、市内電車利用者数は11人/日増加したものと見込まれる。 |
| 事業の今後について | 支援制度を周知し出店を促進することにより、空き店舗の更なる活用を図る。 |

⑤. 中央通りD北地区第一種市街地再開発事業（中央通りD北地区市街地再開発組合）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 平成30年度～令和7年度【実施中】 |
| 事業概要 | スポーツ交流施設、商業施設、業務施設、住宅施設等の複合施設を整備する市街地再開発事業。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 都市構造再編集中支援事業（富山市中心市街地地区（第4期））（国土交通省）（令和4年度～令和7年度） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 【事業目標値】83人/日 増 【最新値】— 令和7年度に開業予定である。 |
| 事業の今後について | 令和3年3月に本組合へ移行し、令和5年2月に権利変換計画の認可を受け、令和8年3月の完成に向け着実に進捗している。事業完了後は、整備される商業施設やアイススケート場の利用者が増加することにより、市内電車の利用者数が83人/日増加すると見込まれる。 |

⑥. おでかけ定期券事業（富山市）

| | |
|--------|-------------------------------|
| 事業実施期間 | 平成16年度～令和8年度【実施中】 |
| 事業概要 | 市内在住の65歳以上の高齢者を対象に、バス・鉄道・路面電車 |

| | |
|-----------------|--|
| | を利用して中心市街地へ出かける際に、1 乗車 100 円で利用できる IC カードを発行する事業。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 4 年度～令和 8 年度） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | <p>【事業目標値】117 人/日 増</p> <p>令和 4 年度のおでかけ定期券一日平均利用者数は、2,051 人と基準年度である令和元年実績 2,758 人から 707 人減少した。このうち、おでかけ定期券での路面電車利用割合は 37%であることから、市内電車一日平均乗車人数は 524 人/日減少したと見込まれる。</p> <p>令和 3 年度実績と比べると、おでかけ定期券一日平均利用者数は 127 人/日増加していることから、基準年度と比べると未だ新型コロナウイルスの影響があるものの回復傾向であると考えられる。</p> |
| 事業の今後について | <p>新型コロナウイルスによるマスク着用が緩和していることなど、新型コロナウイルスの影響が少なくなってきたため、引き続き事業を実施することで利用者も増え、事業目標値の達成も可能と考えられる。</p> |

●目標達成の見通し及び今後の対策

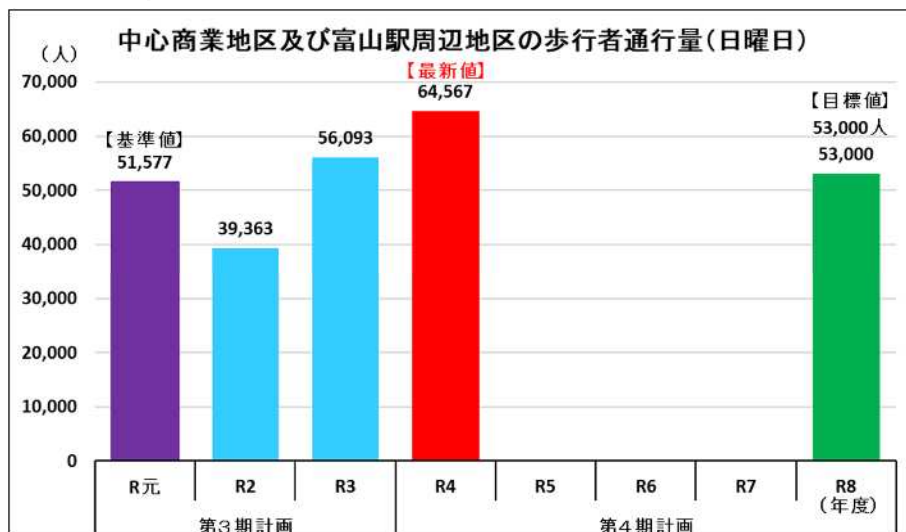
市内電車一日平均乗車人数の増加に向けた各事業については、概ね順調に進捗している。

富山駅北側のブルーバールの再整備によるイベント空間の共用開始や多目的な用途での活用が期待されるオーバード・ホール/中ホールの開館などに伴い、市民の中心市街地への外出機会の増加が期待されることや、他の事業についても引き続き取り組んでいくことで市内電車一日平均乗車人数が増加し、目標を達成可能と見込んでいる。

(2) 「中心商業地区及び富山駅周辺地区の歩行者通行量（日曜日）」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 86～P. 91 参照

●調査結果と分析



| 年 | (単位) |
|----|----------------------|
| R元 | 51,577 人/日 (基準年値) |
| R4 | 64,567 人/日 |
| R5 | |
| R6 | |
| R7 | |
| R8 | 53,000 人/日 (目標値) |

※調査方法：富山市歩行者通行量調査

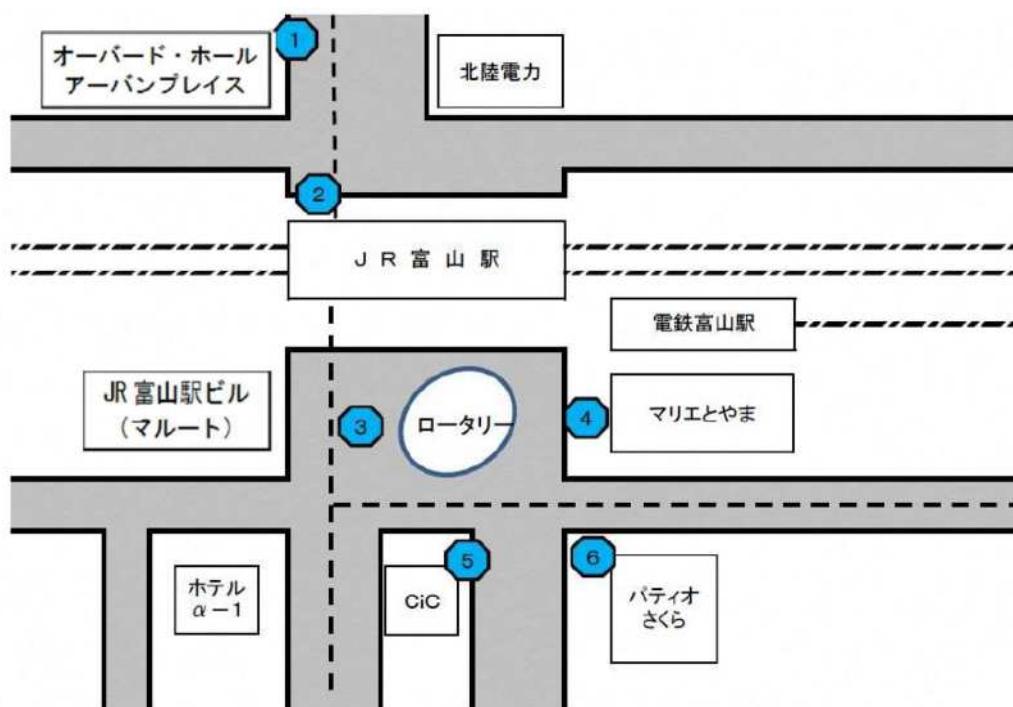
(富山駅周辺地区6箇所、中心商業地区5箇所、11時間連続調査)

※調査月：令和4年5月、8月、11月、令和5年3月の日曜日(各月1日間)

※調査主体：富山市、富山商工会議所

※調査対象：歩行者、自転車

調査地点<富山駅周辺地区(6箇所)>



| | | | |
|------|-------------|----------|---------------|
| 調査箇所 | ①オーバード・ホール前 | ②JR富山駅北口 | ③富山駅南口ロータリー西側 |
| | ④マリエとやま西側 | ⑤CiCビル東側 | ⑥パティオさくら前 |

調査地点<中心商業地区（5箇所）>



調査箇所 ⑦市民プラザ前（東西歩道前） ⑧ユウタウン総曲輪駐車場入口前
 ⑨インフェイズ前 ⑩旧富山西武南側 ⑪北陸銀行本店北側

(単位：人)

| | 令和3年度 (計画前年度) | 令和4年度 (1年目) | 令和5年度 (2年目) | 令和6年度 (3年目) | 令和7年度 (4年目) | 令和8年度 (5年目) |
|----------------|------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| オーバード・ホール前 | 3,342 | 2,442 | | | | |
| JR富山駅北口 | 6,855 | 6,686 | | | | |
| 富山駅南口ロータリー西側 | 6,418 | 19,977 | | | | |
| マリエとやま西側 | 10,549 | 9,497 | | | | |
| CiCビル東側 | 3,675 | 4,151 | | | | |
| パティオさくら前 | 3,019 | 2,823 | | | | |
| 市民プラザ前 | 3,905 | 2,311 | | | | |
| ユウタウン総曲輪駐車場入口前 | 6,487 | 5,849 | | | | |
| インフェイズ前 | 3,889 | 3,804 | | | | |

| | | | | | | |
|----------|-------|-------|--|--|--|--|
| 旧富山西武南側 | 5,331 | 4,707 | | | | |
| 北陸銀行本店北側 | 2,623 | 2,322 | | | | |

※年4回調査の平均値を記載。

〈分析内容〉

中心商業地区及び富山駅周辺地区の歩行者通行量は、目標値である53,000人を達成することができた。

特に富山駅周辺地区の富山駅南口ロータリー西側の調査地点で大きく上昇しており、これは、令和4年3月に商業施設である「MAROOT」が開業したことが大きな要因であると考えられる。

しかしながら、中心商業地区では全ての調査地点で減少しており、基準値である令和元年度と比べ1,844人下回っている。これは、新型コロナウイルス感染拡大前と比べ、イベント開催数が回復していないことが要因であると考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. ブールバール等再整備事業（富山市）

| | |
|-----------------|--|
| 事業実施期間 | 令和元年度～令和7年度【実施中】 |
| 事業概要 | 路面電車の南北接続を契機として、富山駅北の賑わいを創出するためブールバールの再整備やイベント等の社会実験を実施する事業である。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（富山市中心市街地地区（第4期））（国土交通省）（令和4年度～令和7年度） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 【事業目標値】2,530人/日 増 調査地点である「オーバード・ホール前」の最新値は2,442人と基準年度である令和元年度の実績値である2,740人から298人減少した。 これは、新型コロナウイルスの新規感染者数が過去最高を更新するなど外出を控えていた方が多かったことに加え、令和4年9月まで当該調査地点付近において再整備工事を行っていたこともあり、歩行者通行量が減少したと思われる。 |
| 事業の今後について | 令和3年9月に工事着工、令和4年9月にブールバールの一部のエリアについて再整備が完了し、社会実験も3件行った。引き続き、残りのエリアの再整備を進め、イベント等の社会実験にも取り組むことにより、事業完了後には、歩行者通行量が2,530人/日増加すると見込まれる。 |

②. 中規模ホール整備官民連携事業（富山市）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 平成 29 年度～ 【実施中】 |
| 事業概要 | P F I 手法を用いて、富山市芸術文化ホール（オーバード・ホール）北側に中規模ホールを整備し、維持管理を行う事業である。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 【事業目標値】 770 人/日 増 【最新値】 — 令和 5 年 7 月 1 日開業予定である。 |
| 事業の今後について | 令和 3 年 6 月に工事着工し、開館は令和 5 年 7 月 1 日を予定している。開館後はホールの来館者が増加することにより、まちなかへの来街者が増え、事業目標値の達成も可能と考えられる。 |

③. 交通空間賑わい実証事業（富山市/大手モール周辺賑わい創出実行委員会）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 平成 28 年度～令和 8 年度【実施中】 |
| 事業概要 | 富山城址公園が隣接し、沿道にコンベンション施設や複合型商業施設等が並び、路面電車が走行する大手モールをイベントに合わせてトランジットモール化する事業。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 4 年度～令和 8 年度） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 【事業目標値】 270 人/日 増 調査地点である「市民プラザ前」の最新値（令和 4 年度）は 2,311 人と基準年度である令和元年度の実績 2,641 人から 330 人減少した。 交通空間賑わい実証事業のイベントにおいて、歩行者通行量が通常時の 4 倍以上になるなど大手モール周辺の賑わいが図られているが、新型コロナウイルスの影響もあり、外出機会が減ったことや感染拡大前と比べ中心商業地区においてイベントの開催数が回復していないこともあり、事業目標値を満たせなかったと考えられる。 |
| 事業の今後について | 引き続き、事業を継続し、大手モール周辺の賑わい及び集客の創出が図られることで来街者も増え、事業目標値の達成も可能と考えられる。 |

④. 富山市新規出店サポート事業（富山市）

| | |
|--------|---|
| 事業実施期間 | 平成 21 年度～令和 8 年度【実施中】 |
| 事業概要 | 中心商店街等の空き店舗への出店者に対し、店舗改装費や賃借料等を支援し、市民、来街者のニーズが高く、商店街に不足している業種の出店を促進する事業である。 |

| | |
|-----------------|--|
| 国の支援措置名及び支援期間 | 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和４年度～令和８年度） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 【事業目標値】982人/日 増 令和４年度は５件の新規出店に対して支援したことにより、208人/日増加したものと考えられる。 |
| 事業の今後について | この事業においては、５年間で10件の活用を目標としており、今年度で目標の半分である５件の活用を行った。引き続き、支援制度を周知し出店を促進することにより、空き店舗の更なる活用を図ることで、事業目標値の達成も可能と考えられる。 |

⑤. 中央通りD北地区第一種市街地再開発事業（中央通りD北地区市街地再開発組合）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 平成30年度～令和7年度【実施中】 |
| 事業概要 | スポーツ交流施設、商業施設、業務施設、住宅施設等の複合施設を整備する市街地再開発事業。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 都市構造再編集中支援事業（富山市中心市街地地区（第4期））（国土交通省）（令和4年度～令和7年度） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 【事業目標値】2,520人/日 増 【最新値】— 令和7年度に開業予定である。 |
| 事業の今後について | 令和3年3月に本組合に移行し、令和5年2月に権利変換計画の認可を受けており、令和8年3月の完成に向け着実に進捗している。事業完了後は、整備される商業施設やアイススケート場の利用者や共同住宅の整備による居住者が増加することにより、2,520人/日の歩行者通行量の増加が見込まれる。 |

●目標達成の見通し及び今後の対策

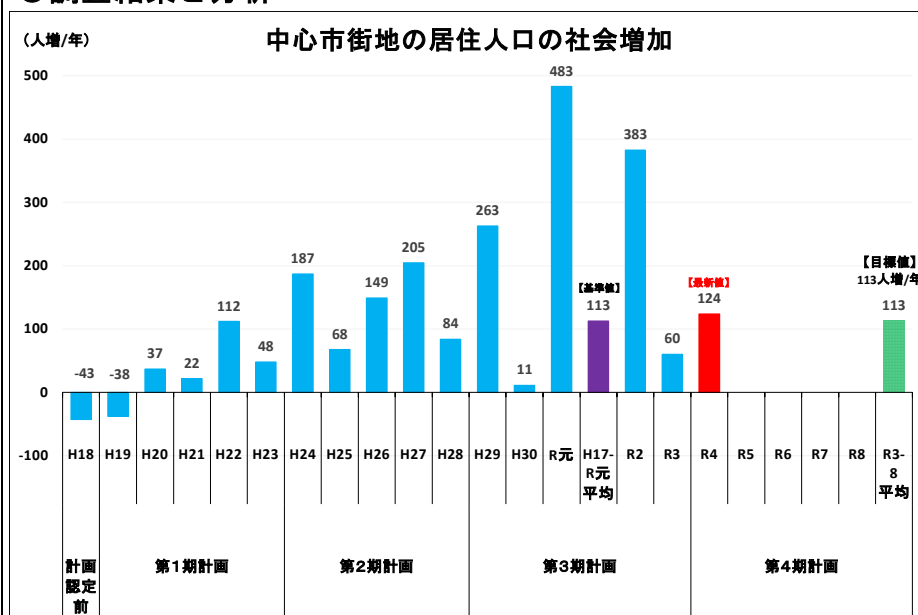
中心商業地区及び富山駅周辺地区の歩行者通行量の増加に向けた各事業については、おおむね順調に進捗している。

新型コロナウイルス感染予防のマスク着用が緩和されたことや感染症法上の位置づけの見直しにより、市民の外出機運が高まるとともにイベントの開催も多くなると見込まれ、歩行者通行量が増えるものと考えられるが、富山駅北地区のブルバールの再整備や中心商業地区における中央通りD北地区市街地再開発事業による集客施設を完成させるなど、引き続き魅力あるまちづくりに努めることで、目標を達成可能と見込んでいる。

(3) ①「中心市街地の居住人口の社会増」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 92～P. 93 参照

●調査結果と分析



| 年 | (単位) |
|--------|--------------------|
| H17-R元 | 113 人増/年 (基準年値) |
| R4 | 124 人増/年 |
| R5 | |
| R6 | |
| R7 | |
| R8 | |
| R3-8 | 113 人増/年 (目標値) |

※調査方法：住民基本台帳データに基づく

※調査月：毎年7月～翌年6月

※調査主体：富山市

※調査対象：中心市街地の居住者

〈分析内容〉

中心市街地の居住人口は平成19年度から社会増加が続いており、令和4年度においても、124人の社会増加になるなど、目標値である113人の社会増加を上回っている。

これは、「まちなか居住推進事業」により、まちなかにおける住宅の取得や共同住宅の建設などに対する支援の効果が現れていることもあるが、市内電車環状線や循環型コミュニティバス「まいどはやバス」、自転車市民共同利用システムなどによるまちなかにおける交通利便性の向上や、新鮮な地場産品を取り扱う「地場もん屋」をはじめとした生活利便施設の立地など、質の高い居住環境が整ってきたことでまちなかでの居住ニーズが高まっていることも要因と考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中央通りD北地区第一種市街地再開発事業（中央通りD北地区市街地再開発組合）

| | |
|---------------|---|
| 事業実施期間 | 平成30年度～令和7年度【実施中】 |
| 事業概要 | スポーツ交流施設、商業施設、業務施設、住宅施設等の複合施設を整備する市街地再開発事業。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 都市構造再編集中支援事業（富山市中心市街地地区（第4期））（国土交通省）（令和4年度～令和7年度） |
| 事業目標値・最新 | 【事業目標値】434人/日 増 |

| | |
|-----------|---|
| 値及び進捗状況 | 【最新値】— 令和7年度に開業予定である。 |
| 事業の今後について | 令和3年3月に本組合に移行し、令和5年2月に権利変換計画の認可を受けており、令和8年3月の完成に向け着実に進捗している。事業完了後は、約220戸の共同住宅が整備されることにより、中心市街地の居住人口が434人増加すると見込まれる。 |

②. まちなか居住推進事業（富山市）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 平成17年度～ 【実施中】 |
| 事業概要 | 快適なまちなかにふさわしい多様な住まいの建設及び供給する市民・事業者に対して支援する事業である。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 都市構造再編集中支援事業（富山市中心市街地地区（第4期））（国土交通省）（令和4年度～令和7年度） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 【事業目標値】739人 増（75件/年の支援） 【最新値】219人 増 令和4年度の住宅取得支援（共同住宅を除く）の件数は、111件と、基準としている平成28年度から令和2年度実績の年平均である75件を36件上回った。 |
| 事業の今後について | 引き続き、まちなか居住を希望する方に住宅の取得支援を行い、まちなか居住を推進する。 |

●目標達成の見通し及び今後の対策

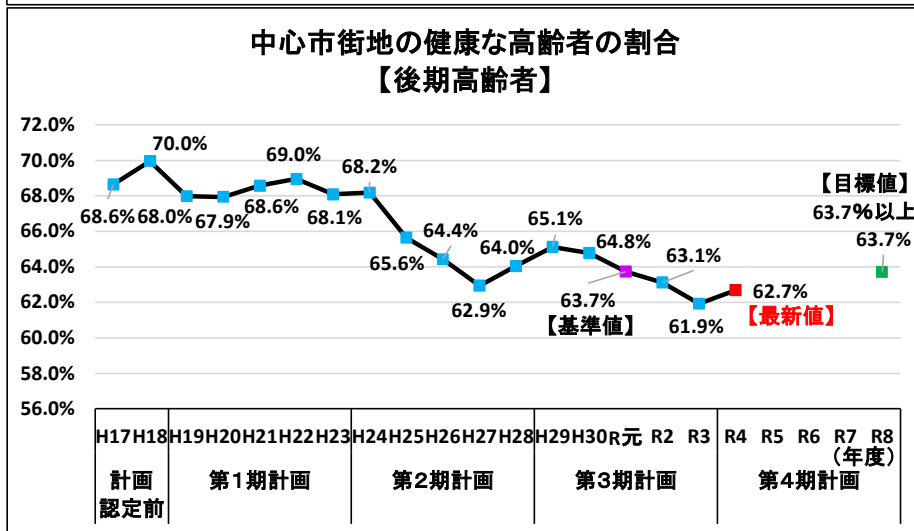
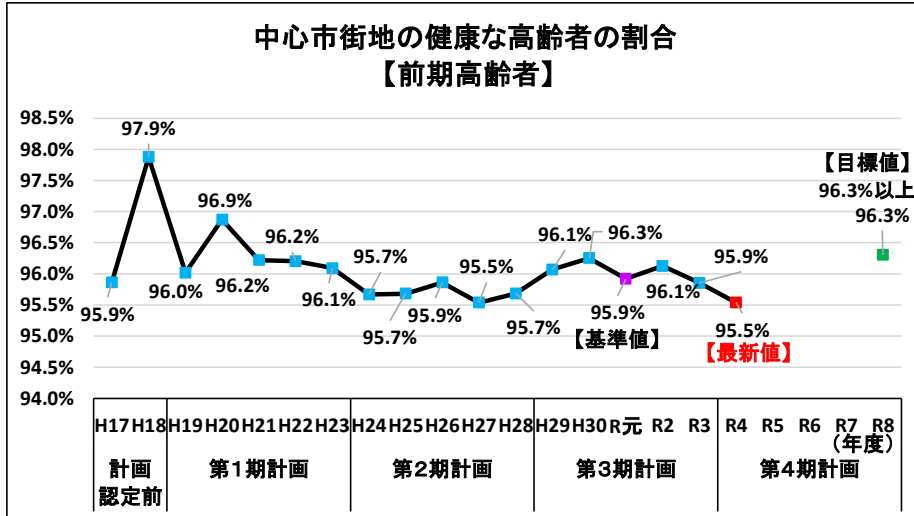
「まちなか居住推進事業」による支援が、目標の達成に寄与している。

今後も「中央通りD北地区第一種市街地再開発事業」や民間事業による分譲マンションの建設が予定されていることから、中心市街地の居住人口の社会増加が見込まれ、引き続き、まちなか居住を支援することで更なる中心市街地の居住人口の社会増加を目指すことで、目標を達成可能と見込んでいる。

(3) ②「中心市街地の健康な高齢者の割合」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 94～P. 95 参照

●調査結果と分析



| 年 | (単位) |
|----|---|
| R元 | 前期高齢者 95.9% 後期高齢者 63.7% (基準年値) |
| R4 | 前期高齢者 95.5% 後期高齢者 62.7% |
| R5 | |
| R6 | |
| R7 | |
| R8 | 前期高齢者 96.3%以上 後期高齢者 63.7%以上 (目標値) |

※調査方法：介護保険の要介護・要支援データ

※調査月：各年6月末時点

※調査主体：富山市

※調査対象：中心市街地に居住している65歳以上の高齢者

〈分析内容〉

中心市街地の健康な高齢者の割合は、前期高齢者においては95.5%と、基準年度である令和元年度の基準値と比べ0.4ポイント、目標値と比べ0.8ポイントそれぞれ下回っている。また、後期高齢者においては、62.7%となり、基準年度である令和元年度の基準値及び目標値と比べ1.0ポイント下回っている。

新型コロナウイルス新規感染者拡大前と比べるといずれも下回っており、令和4年度は新型コロナウイルス新規感染者数が過去最高を更新するなど、外出機会が少なくなり、高齢者の身体活動時間や人との交流機会の減少を引き起こしたことが要因として考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 地域包括ケア拠点施設運営事業（富山市）

| | |
|-----------------|--|
| 事業実施期間 | 平成 29 年度～令和 8 年度【実施中】 |
| 事業概要 | 乳幼児から高齢者、障害者やその家族が、いつまでも地域で安心して暮らせる健康まちづくりを推進するための行政サービスを一元的・包括的に提供する「まちなか総合ケアセンター」の運営や、総曲輪レガートスクエア内の官民施設が協働事業に取り組み、賑わいや世代間交流・地域間交流の創出を図る事業である。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 子ども・子育て支援交付金（内閣府）（令和 4 年度～令和 8 年度） 母子保健衛生費補助金（厚生労働省）（令和 4 年度～令和 8 年度） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 【基準年度】診療件数 1,903 件、カレッジ参加人数 4,211 人 【最新年度】診療件数 1,885 件、カレッジ参加人数 2,524 人 令和 4 年度の診療件数は 1,885 件と基準年度である令和元年度の 1,903 件から 18 件減少した。また、令和 4 年度のカレッジ参加人数は 2,524 人と基準年度である令和元年度の 4,211 人から 1,687 人減少した。 令和 3 年度と比べ診療件数は 95 件、カレッジ参加人数は 1,165 人増加していることから、基準年度と比べると新型コロナウイルスの影響があるも回復傾向であると考えられる。 |
| 事業の今後について | 引き続き、まちなか総合ケアセンターにおける様々な取り組みを通して、地域住民が安心して健やかに生活できる健康まちづくりを推進し、中心市街地の健康な高齢者の割合の向上を目指す。 |

②. 角川介護予防センター管理運営事業（富山市）

| | |
|-----------------|--|
| 事業実施期間 | 平成 23 年度～ 【実施中】 |
| 事業概要 | 超高齢化社会により高齢者人口が増加すると見込まれる中、多機能温泉プールによる水中運動やパワーリハビリテーション等の陸上運動を組み合わせた介護予防プログラムの提供などを行う介護予防の拠点施設である「角川介護予防センター」を運営し、元気な高齢者を増やすため積極的な活用を推進する事業である。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 【基準年度】延べ利用者数 87,336 人 【最新年度】延べ利用者数 79,864 人 令和 4 年度の角川介護予防センターの延べ利用者数は 79,864 人と基準年度である令和元年度の 87,336 人から 7,472 人減少した。 令和 3 年度と比べると 11,545 人増加していることから、基準年度と比べると新型コロナウイルスの影響があるも回復傾向であると考えられる。 |

| | |
|-----------|--|
| 事業の今後について | 引き続き、角川介護予防センターにおける様々な取り組みを通して、高齢者の生活の質の向上と健康寿命の延伸を図ることで、中心市街地の健康な高齢者の割合の向上を目指す。 |
|-----------|--|

③. 歩くライフスタイル推進事業（富山市）

| | |
|-----------------|--|
| 事業実施期間 | 令和2年度～ 【実施中】 |
| 事業概要 | 「とほ活」(＝富山で歩く生活) をキャッチコピーに、過度に車に依存したライフスタイルから、公共交通を利用した中心市街地への来街や健康づくりとして歩くなど、「歩くライフスタイル」への転換を促す。また、「歩きたくなるまちづくり」の一環として、まちを楽しみながらより長く快適に歩けるよう官民が連携してベンチを整備する事業である。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 地方創生推進交付金（内閣府）（令和4年度～令和8年度） 都市構造再編集中支援事業（富山市中心市街地地区（第4期））（国土交通省）（令和4年度～令和5年度） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 【基準年度】60歳以上のとほ活アプリユーザーの月当たり平均歩数 5,810歩 【最新年度】60歳以上のとほ活アプリユーザーの月当たり平均歩数 6,082歩 令和4年度の60歳以上のとほ活アプリユーザーの月当たり平均歩数は6,082歩と基準年度である令和元年度の5,810歩から272歩増加した。 これは、賞品応募やイベント等により、新規利用者を獲得したことや歩くことの意識の醸成が図られたことの結果と考えられる。また、令和4年度のとほ活ベンチ事業によりベンチを7基整備しており、市民がより長く、快適に歩ける空間づくりの取り組みにより、平均歩数の増加が見込まれる。 |
| 事業の今後について | 引き続き、とほ活アプリを通じて歩くことの意識の醸成を図り、中心市街地の健康な高齢者の割合の向上を目指す。 |

④. シニアライフ講座運営事業（富山市）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 平成8年度～ 【実施中】 |
| 事業概要 | 60歳以上の市民を対象に、健康と生きがいを高めるため、公民館等を会場に、趣味活動・創造活動・健康活動の各種講座を開催する事業である。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 【基準年度】シニアライフ講座参加人数 341人 【最新年度】シニアライフ講座参加人数 223人 令和4年度のシニアライフ講座の参加人数は223人と基準年度 |

| | |
|-----------|---|
| | <p>である令和元年度の341人から118人減少した。</p> <p>令和3年度と比べると7人の減少にとどまっており、減少幅が小さくなっていることや、新型コロナウイルス感染予防のマスク着用が緩和されたことなどにより、高齢者の外出機運が高まり利用者が回復していくものと考えられる。</p> |
| 事業の今後について | 引き続き、シニアライフ講座を通じて、高齢者の健康と生きがいを高め、中心市街地の健康な高齢者の割合の向上を目指す。 |

⑤. おでかけ定期券事業（富山市）

| | |
|-----------------|--|
| 事業実施期間 | 平成16年度～令和8年度【実施中】 |
| 事業概要 | 市内在住の65歳以上の高齢者を対象に、バス・鉄道・路面電車を利用して中心市街地へ出かける際に、1乗車100円で利用できるICカードを発行する事業。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和4年度～令和8年度） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | <p>【基準年度】延べ利用者数 1,009,470人</p> <p>【最新年度】延べ利用者数 748,684人</p> <p>令和4年度のおでかけ定期利用者数は、748,684人と基準年度である令和元年度の実績1,009,470人から260,786人減少した。</p> <p>令和3年度実績と比べると、46,481人増加していることから、基準年度と比べると新型コロナウイルスの影響があるも回復傾向であると考えられる。</p> |
| 事業の今後について | 引き続き、おでかけ定期券事業を通じて、高齢者の外出機会や、歩く機会を増やすことで、中心市街地の健康な高齢者の割合の向上を目指す。 |

●目標達成の見通し及び今後の対策

中心市街地の健康な高齢者の割合の増加に向けた各事業については、おおむね順調に進捗している。

今後、新型コロナウイルス感染予防のマスク着用が緩和されたことや感染症法上の位置づけの見直しなど高齢者の外出機運が高まり歩く機会も増えることから、健康な高齢者の割合も回復すると考えられるが、引き続き、高齢者の健康づくりを支える「角川介護予防センター」における温泉水の効用を活用した水中運動やパワーリハビリテーションなど複合的な介護予防プログラムの提供や「まちなか総合ケアセンター」における在宅医療の推進をはじめとした地域包括ケア拠点施設としての総合的な支援に加え、シニアライフ講座運営事業や歩くライフスタイル推進事業、おでかけ定期券事業などを実施し、高齢者の外出機会を増やし、歩く機会を増やす施策にも取り組むことで、中心市街地の健康な高齢者の割合が増え、目標を達成可能と見込んでいる。